

モデル事業名	神仏と伝統芸能を中心とした歴史的文化的地域資源を継承・利用した山村地域活性化事業
活動団体名	遠山郷神様王国運営委員会
ホームページ	http://kami30.com/
所属/ 担当者名	担当者氏名（問合せ先） 藤田佳久（愛知大学文学部教授）
連絡先	電話番号 0532-47-4111、Eメールアドレス fujita@vega.aichi-u.ac.jp
活動地域	長野県飯田市南信濃和田地区・木沢地区

● 活動地域の概要

- ・ 旧南信濃村は和田地区を中心集落とし、木沢、八重河内、南和田の4集落で構成される。
- ・ 明治以降、製紙会社や戦後の国有林伐採による郷内への貨幣経済の浸透もみられたが、外材卓越の中で林業不況となり、就業構成はかつての林業が土木建設業や飯田市街地への遠距離通勤などへと変わり、近年就業内容がさらに多様化している。現在、事業所総数も第三次産業部門が77%を占めている。
- ・ しかし、そのことが若年層を中心に人口流出を生み、昭和30年には南信濃で6500人を数えた人口は、現在約2000人となり大幅に減少。世帯数も1400世帯が930世帯へと減少し、各地区ともに人口および世帯数は減少している。
- ・ 南信濃における65歳以上の高齢化率は40%を超え、下伊那地域全体の平均比率を7%以上上回っている。
- ・ 昭和30年代には20～40歳代が最多を示したが、今日では前述のように65歳以上が40%を占め、15歳以下の若年層はわずか8%に過ぎない。急速に過疎・高齢化と少子化が進行している。
- ・ 公共交通のうち鉄道は地域内になく、隣接する天龍村にあるJR飯田線平岡駅が最も近い。平成20年まで民営バスがJR平岡駅と地域内、飯田と地域内をつないでいたが、現在は飯田と和田間が残るのみであり、あとはタクシーバスと称する委託事業へと変わっている。デマンド方式であり、本数は減っている。



【太枠飯田市域、斜線部南信濃】



【再利用を目指したい旧秋葉道】



【庶民信仰の多くの神々が祀られている】

● 活動地域の課題

上述した人口減少、高齢化問題とともに、飯田市に吸収合併され地域の指導者を失い活力が減退しているこの地域の活性化への一助をめざした。そこで、遠山郷の歴史的文化的資源である多くの庶民信仰の神々を、今日の文化資源として再生し、「癒しの空間」にしようと2008年度にこの事業により和田地区で発足した「神様王国」の一層の整備と活用を図る一方、より山間地域にあたる木沢地区での神仏調査と霜月祭の復元をすすめ、地区の活性化をめざす。また旧秋葉道をつなげて街道沿線の地域との交流を図りつつ、その活用方法を検討する。

以上が活動地域の大きな課題と本事業の概要だが、以下のような個別課題もみられる。

1. 「神様王国」における個々の神仏の石像や碑、案内板、休憩所、トイレ、コース、旧秋葉道の一層の整備
2. 「神様王国」における有料ガイドの先進地での実践研修の必要性
3. 著しい過疎・高齢化により簡略化されたかたちで継続している霜月祭の復元調査と木沢地区の神仏調査
4. JR飯田線平岡駅での鉄道とバスの接続（本数の増加と、乗り継ぎ時間を短縮させる必要がある）
5. 来訪者案内所「アンバマイ館」（現地の方言で「遊びましょう」の意）での職員対応の工夫（ネーミングの精神に合うような職員の育成の必要性がある）
6. 来訪者増加の際、神仏保全（具体的にはコンクリートで神仏を固定するなどの盗難防止）の工夫
7. 地域経済が活性化するよう、土産品などの商品開発をすすめること（「一店一品」をめざしたい）

● 活動の内容

(全体)

神様王国運営委員会のメンバーを中心にガイドシステムを構築し、来訪者の案内を行ってきたが、整備やPR活動が十分ではなかった。そこで「新たな公」助成により、平成20年度は各種リーフレットやガイドブックを発行し、来訪者の神仏への理解がすすむよう工夫した。また、地域外の来訪者にその存在を知ってもらうためにホームページを立ち上げたり、モニターツアー参加者から率直な意見を頂戴した。平成21年度は、和田地区における整備の継続（ホームページとリーフレットの改善、案内板の補修、休憩所と旧秋葉道の整備）と、ガイドのスキル向上のための実践研修を高山市や旧古川町で行った。日常的には「アンバマイ館」にガイドを配置して情報提供を行っている。さらに、木沢地区にも「神様王国」を拡大するために基礎調査と和田地区同様の整備を行ない、霜月祭の復元調査も行った。その結果、木沢地区でもガイドブック類を作成した。活動の評価とまとめとして、モニターツアーとワークショップを行なった。

(直近1年間の進捗など)

平成22年1月から3月には、有識者と飯田市観光課職員を招き、和田地区で中学生を含む地元住民たちとワークショップを開催した。また、ガイド研修で指導を受けた高山市と旧古川町のガイドを和田地区に招き、彼らにガイドの実地指導をお願いした。また、木沢地区における基礎的な神仏調査が完了したので、ガイドブックを刊行した。

平成22年4月以降は、引き続き観光客を受け入れ、ガイドたちもスキルアップしている。引き続き運営委員会も定期的に開催しており、メンバーたちが活発に議論を交わしている。また、「神様王国」を拡大するため、八重河内地区において神仏調査を行なっている。平成23年度は、南和田地区で神仏調査を行う予定である。

● 活動の成果

上述した印刷物の刊行と、ホームページ公開が実現し、多くの観光客が「神様王国」に訪れるようになった。なかでもリーフレットはJR平岡駅と豊橋駅観光案内所に設置しているが、すぐに補充をしなければならぬほど好評である。また、初年度のモニターツアーでは参加者はおおむね良好な評価を下したが、ガイドの気配り不足や神仏の祀られている場所のなかに整備されていないところがあったなど、ハード・ソフト両面で不備が指摘された。ガイドたちはモニターの意見を率直に受け止め、互いに研鑽を積むとともに、ガイド先進地の高山市や旧古川町のガイドから指導を受けることにより、レベルアップしつつある。一部で神仏整備もすすみ、2年目のモニターツアーでは前年のそれより良好な評価が下された。



【モニターツアーの様子】

・直近1年間の成果など

平成22年度は、飯田商工会議所遠山郷支所長の尽力があり、「神様王国」事業に理解を示した飯田商工会議所より若干の調査費の助成を受けている。それにより、中央構造線に沿って旧秋葉道が通る八重河内地区での神仏調査が実現した。八重河内地区内に三遠南信自動車道が通るため、ルート沿いの神仏の移転が計画されている。現状を記録する意味で八重河内地区での神仏調査は緊要の課題であり、当地区の神仏は新たな観光資源となる可能性も有している。

上述したように、ワークショップを開催したほか、観光客の受け入れと運営委員会の開催は継続している。



【ワークショップの様子】



【神仏調査の様子】



【旧秋葉道沿いの元馬宿】

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

遠山郷には「神様王国」以外にも日帰り温泉施設「かぐらの湯」や旧木沢小学校木造校舎などの施設があるが、これらとのネット化や協働が必要である。さらに、地域に眠る活用されていない資源を発掘し、それらを積極的に観光商品化し、見て聞く「神様王国」に体験ができるようなプランも提案し、観光客が何度も遠山郷を訪れてくれるよう工夫したい。そのためにも地域住民の「神様王国」認知度をさらに上げ、地域全体で「神様王国」を盛り上げていきたい。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

今後は遠山郷全体に「神様王国」を広げ、地域全体で「癒しの空間」として山村活性化に自立的に活用できるようにすることを目標としたい。本事業により、地域に誇りをもった住民によるコミュニティづくりが可能になり、また来訪者の増加により地元にも経済的効果も期待することが出来、そこからさらに新たな地域づくりの工夫が生まれることが十分期待できる。

来年度、「新たな公」事業が復活することを強く願います！